
チートなウイルスに侵されました！

狗寂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チートなウイルスに侵されました！

【Zコード】

N7091Y

【作者名】

狗寂

【あらすじ】

ある日、普通の女子学生が朝起きたら体が人外に…背中に羽根生えてるは下半身が龍っぽいし！つーか全身可笑しくね！？なチートウイルスに適応し過ぎてしまつた普通な主人公、漓優の非日常な現代ファンタジー？物語です。

19XX年。突如小さな小惑星が地球に追突した。

小惑星は地球に追突する前に摩擦熱で表面が削り取られその欠片が世界に降り注いだ。

幸いにも摩擦熱で少し小さくなつた小惑星は砂漠に落ちて死人は出なかつた。

しかし、小惑星を調べた結果。世界は混乱に陥つた。

小惑星には初めて発見されたある異物ウイルスのようなモノが検出された。

その異物ウイルスは遺伝子影響を与える、外見が変わると同時に非科学な現象を起こした。

ある者は金髪が赤毛に変わり手から火を出した。

また、ある者は耳が兎の様に変わり兎の如く瞬発力や聴力などが上がつた

などその時の遺伝子科学者達などが思わず書類を地面に叩き捨てるなど世界の常識を覆す事態が起きた。

しかし、この異物ウイルスはすべての人間にそういう異常をきたす訳では無かつた。

科学者達は遺伝子などの適合率でなつたのではと言つが原因はまだ不明である。

しかもこの異物ウイルスは突如に遺伝子に異常をきたすので症状が現れるのはいつ現れるかわからないのである

この異物ウイルスはその効果性などの理由で『^{「Gターブラック} GT』と名付けられた。

現在、20XX年。GTによって非科学的な能力を持つた人間（デイオテスターと呼ぶ）は世界でも百もいなため世界はデイオテスターを求め合つよつになつた。

第1話（え？なに「ムヘ」）

朝早く起きた。今日はやけに寝苦しく早く起きてしまった。
なんか背中重いし足も重い。あ、頭も重いやえ？風邪？マジでか。
よし、熱が出てたら学校休もう。

取り敢えず体温計を探しに体を起こして・・・・ん？

あれ？なんで羽根が散らばってんだ？

あれ？この白い長い髪みたいのはなんだ？

あれ？あれ？

「・・・・」

下半身にあつた布団を退かして見たら

「おー、龍見たい」

自分の見慣れてる足はなく代わりにまるで東洋の龍見たいな足に尻
尾が

・・・・つて

「はあああああああー————！？」（驚愕）

「貴女はデイオテスターになりました！」

「え？」

「しかも、性転換し姿も別人。ここまで異常反応は例を見ません！」

取り敢えずパニックになりながらも家族を起こし（吃驚されて泡吹いたが）

病院に連れてつもらつたがウチの姿を見るやいなや病院が連絡いれたらしい別の病院の人たちに連れられ（強制連行だろ！）

大きな病院に着くや否や様々な検査をされ、原因が医師に告げられ冒頭にもどる。

「で、ディオテスターってあれですよね人間ビックリショードですよ
ね？」

「人間ビックリショード知りませんが世界の宝とも名高いディオテ
スターですね」

「あらまあ

取り敢えずどんな能力をもつているのか実く・・・検査しましょう。
とかなり嫌な予感を感じながら母親に脅され強制的に検査を受けた
(今絶対に実験つて言おつとしだらあのヤブ医者ー)

つーかママン！何普通にヤブ医者と会話してるの！
ついさっきまであんなにウチの体見て顔青ざめてたのに！切り替え
早くね！

・・・ つて、おい！今剣山つて聞こえたけど！
剣山つてあれだろ？花をぶつ刺すのに使うやつだろ？
何するきだよアンタ等は！（汗）

なあ、自分で生きて帰れるの！？

おもいつきり死亡「プラグに突つ込んでる氣がするのはウチだけなの？
なあ！（泣）

第2話（能力とか諸々の説明です！）

・・・・えーと、あれから検査と言つなの実験&拷問を1ヶ月やつた結果（よく1ヶ月生きて帰れたな（泣））

ウチの能力は他のデイオテスターと違い複数あることがわかりました。

ウチ以外のデイオテスターは一人に一つの能力がついているらしいのですが

（例）

赤毛の人は火を使う能力で火を操る事しか出来ない
兎耳の人は兎の特性、耳の聴力や脚力などしか使えないなど一つの能力しか使えないらしいです。

ウチは水も操れるし氷を生み出すし風も操れるし火も無論使えます
他にも水を浄化、植物の急成長等々

・・・・あーまだまだ沢山あるけどヤブ医者曰く、無限の可能性を
秘めた能力というなんとも自分の能力ながらチート過ぎると呆れる
ほど最強的な能力でした。

前半はその能力ゆえに皆パニクつて

死人が出るんじゃあ。とかめつちや思いました。

後半からはまあ・・・・うん最悪だけどあのヤブ医者のお陰で能力
はあらかた1ヶ月以内でマスターしつつある。
(がつ、また新しい能力も見つかっているのであまり関係ない)

あ、それとウチの下半身が龍見たいになつてているけど一様人の足にもなれる事が判明しました。

ただし、その場合能力のコントロールが不安定になるので基本的下半身は龍のままで。

なんか蛇女の進化版だなとか家族に囁かれたがあえてそこはスルーした。まあ、この姿を見て嫌悪感を出さないでくれたのが幸いだし。（いや、別にもうツツコミ入れるの面倒でスルーしようとか思つてませんから！）

顔は平凡顔から一気に美少女にランクアップしたし
・・・・ん？性転換したから美少年か？

まあ髪が茶色から白に変わつて肩ぐらいにあつた長さが地面に着くぐらいに伸びて、一瞬「え？平安？」と、一人虚しくツツコミをいれたりしていた。

まあ、綺麗になるのは嬉しいよ

・・・うん、例え男になろうが人外になろうが

・・・うん、嬉しい・・・はず（汗）

第3話（ね仕事しおり）（前書き）

こんな駄文にお氣に入り登録誠にありがとうございます。まわらわ
！？

これからもがんばります！

第3話（お仕事しましょ）

さて、前回は能力の紹介をしたのですが
次はその能力を生かしたウチの新しいアルバイトをご紹めしめしましょ
う！

「ディオテスターはその能力を駆使して國の為に働く（給料がアルバ
イト並みに安い）というのが世間の評価ですが・・・
ぶつちやけた話、自國（俺等）の為に働くねえと酷い目に会わせる
ぞ？
と言つ政府の脅しである。

・・・・が、タダ働き（安月給）で働くなんてウチが許さない
しかも、ウチの能力を知つてからと言つのも無理難題を次々と糞偉
そうな態度で命令するもんだから
元々短期なウチはぶちギレて「テメエ等見てえなクズ野郎に何で命
令されなきやならねえんだよ！しかも給料安過ぎだろ！上げねえと
テメエ等のマイホームにメテオぶつけるぞゴラア！」（怒）

と、暴れた結果高月給でのアルバイト（政府の依頼）を受ける事に
なりました！
いや～、キレた甲斐があつたよ！（安月給なんて考えられねえ！）

まあ、依頼は瘦せこけた森の森林化（木の苗から大木にしたり）ゴミ処理場のゴミを別の物にしたり（ゴミ山を腐葉土の山に変更）工場で出る汚染水を透明度高い水に浄化したり（勿論飲めます）

基本は環境改善の為に能力を使い続けた。

そしたら金が貯まる貯まる（笑）

取り敢えずその貯まつた金を家族に渡し（自分のはちやつかりキー
ブ）

また依頼を受けて金を貯める 貯金がふえる 家庭が裕福になる
旨いもんくえる 自分大満足！ 気分がよくなり依頼をする気になる
依頼を受ける

という、自己満足ループなので案外いいアルバイトである。

ついでに自分の能力の実験も出来るしません一石二鳥だ。（コント
ロールも前より良くなりつつある・・・と思つ）

まだディオテスターになつて間もないのに世間ではウチの事を高く
評価しているからそのうち外国の依頼も来るかも知れないらしい

・・・・うわあ、超めんどくせえ（超嫌な顔）

まあ、能力のコントロールをあらかたマスターしたら学校に行く許
可がもらえるのと云つことで、まあ、それまで依頼（と云つ名の実
験）をやりまくるか。

第4話（許可がもらいました！）

バシャツ、バシャツ

透明な強化ガラスの巨大なプールに優雅に泳いでいる六枚の羽根を持つ龍。

出かさは約10メートルぐらいの大きさで、深さもあるがその水の透明度は高く、一番下に泳いでいてもまるわかりになるほど透き通っている。

「璃優ちゃん！そろそろいいわよーー！」

プールが見渡せる家の一階ぐらい高いテラスから白衣を着た女性がプールに向かって大声で話す。

すると、プールに泳いでいた龍は水面から顔を出し、プールの端に泳いで来た。

プールの端に手を置くと、その姿はみると変わっていく。小さくなっていくと同時に、角は無くなり、純白の鱗は人の肌へと変わる。下半身は龍のままで、羽根もでているが人の姿へと変わっている。

「富沢さん、これで今日の依頼は終了ですか？」

女性とも男性ともとれる美声は彼の容姿にぴったりな声である。そんな彼の問いにテラスにいた彼女は「終わりよーー！」と言つて手

「ラスのすぐ横に備え付けられてる階段を降りて彼の元に向かう。

「璃優ちゃん、苦労様。相変わらず貴方の能力は見てて飽きないわ〜（笑）」

「やうですか？つか、ちやんは止めてくださいよ？」

「あら、じゃあ・・・璃優君！（笑）」

「君も止めてください？一様女だったんですから」

「え〜、じゃあどうで呼べばいいかわからないじゃい！」

「いや、だから普通に呼び捨てで構わないって言つてるじゃないですか！」

「それじゃあ面白くないじゃない！（真顔）」

「いや、面白がるなよー（裏手で突っ込み）」

など、ゴントのような会話が続くが白衣の女性、宮沢は「あ、そう言えば」と何か思い出したよう手をパンツと叩いた。

「璃優ちゃん、あなた来週から学校行けるわよー。」

「だからりりん付けは・・・って、え？学校？」

「やつよ、学校よ。もうコントロールも十分出来てるし、璃優ちゃんは来週から風間坂^{かさまさか}学園に入学よー。」

「え？ 風間坂学園？ 自分千世子高校に通うはずで……」

璃優は現在14歳。能力に目覚めたのが中学3年の夏あたりなのでコントロールをマスターするのに半年かかったとなると今は丁度入学シーズン一步手前なのである。

「何勝手に学校変えてんだよ（怒）つか、風間坂学園つて確かに結構金持ちが集まる学園じゃあ……」

「まあ、世間的にはそうね

「 げ、嫌ですよ。確かに地元からマジ遠いし、わざわざ高い金かけてそんなどこ行きたくないですよ、金勿体ないじゃん！（心の叫び）」

「 今の後半の心の叫びがだだもれよ（汗）。」

「 一般家庭の貧乏性をなめないで下さい。」

「 なめてないわよ。でも、学園へはどうしても行つてもらうわ。普通の高校にディオテスターが行くなんて論外よ。しかも貴方はディオテスターの中でも特別なの。学園には貴方の他にもディオテスターがいるから」

「 ・・・・はあ、せつかく貯めた金でマイホーム買つたのにまた引つ越すなきや行けないなんなんて（泣）」

「 あら、貴方なら飛んで行けるから大丈夫じゃないの？」

「・・・・あ、（忘れていた）」

「・・・まあ、学園に言つてる間も依頼はするからね。あと、学園の詳しい事は親御さんに聞いてね」

「うわ、やっぱり親ぐるみで話すすめてたんかい。しかも当の本人抜きで！」

ウチの事なんだからなんでウチに相談なしで（泣）・・・とか。『のまま落ち込んだ

まあ、本人に話したら絶対反対するのが目に見えてだから話さなかつたのだが、意外に流されやすい（親しい人限定）のだから押して流しちまえばしまえばこっちのものだと計画していた富沢達の罠にまんまとはまつた璃優であつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7091y/>

チートなウイルスに侵されました！

2011年11月30日12時52分発行